

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
「HIV 感染症の曝露前及び曝露後の予防投薬の提供体制に関する研究」
令和 5 年度 分担研究報告書

【研究分担課題名】日本在住 MSM に対する PrEP の情報提供に関する研究

研究分担者：生島 嗣（特定非営利活動法人ふれいす東京・代表）

研究協力者：山口正純（武南病院、ふれいす東京）、三輪岳史（ふれいす東京）、大槻知子（ふれいす東京）

研究要旨

本研究では、PrEP 提供体制の確立と安全な利用促進を目指して、いくつかの重要な取り組みを行っている。PrEP 利用者は年々増加しており、日本国内では 2024 年に PrEP が承認される見込みであるが、地方を含めた各地域での提供体制はまだ十分と言えない。そこで本年度は、PrEP 利用者が必要な検査を受けられる環境を整えるため、PrEP in JAPAN のホームページに「見守りリンク集」を作成し、医療機関の掲載基準を公開した。この基準には、必要な検査の実施、PrEP の詳細情報の明示、HIV やその他感染症への対応の記載が含まれている。さらに、潜在的な PrEP 提供者の掘り起こしを目的とした医療者向けセミナーを開催し、地方の医療機関や支援機関への情報提供を行った。2023 年 10 月 20 日に開催したオンラインセミナーでは、日本全国から医師や看護師、コミュニティセンタースタッフなどが参加し、PrEP の実践的な知識が共有された。利用者向けにもオンラインセミナーを開催し、PrEP の必要性や利用方法に関する情報を提供した。教育資料としては、PrEP の使い方に関する約 5 分間の動画を作成し、ホームページ上で公開した。これにより、医療従事者が PrEP 提供に参入する際の負担が軽減されることが期待される。本研究の結果、地方を含む各地域での PrEP 提供体制の確立に向けた基盤が構築され、PrEP の知識と利用環境の向上が図られた。今後は、更なる情報の普及と地域ごとの特性に応じた PrEP 提供体制の強化が期待される。これにより、HIV 感染予防に対する意識向上と実際の感染リスクの低減が見込まれる。

A. 研究目的

本研究は、PrEP 利用の手引きおよび PrEP 情報に関するプラットフォームを活用し、PrEP の情報提供を実施している。具体的には、PrEP 利用者がクリニックなどで HIV/STI、腎機能、肝炎などの必要な検査を受けられる環境を整えるために、PrEP in JAPAN のホームページに「見守りリンク集」を作成した。しかし、都市部と比べて地方での PrEP 展開はまだ限定的である。そこで本年度は、地方での PrEP 提供体制の確立の支援に重点を置き、医療機関や PrEP ユーザーと連携しながら全国の PrEP 利用希望者へ情報を発信しつつ、PrEP 提供施設の開設希望者やその支援機関など、潜在的な PrEP 提供者の掘り起こしや育成活動も行った。

B. 研究方法

まず、「見守りリンク集」に掲載するための医療機関の基準を作成し、ホームページ上に公開した。掲載ガイドラインにはいくつかの必須条件と推奨条件を含めた。必須条件としては、PrEP に伴う必要な検査を行っていること、提供する PrEP の詳細（先発、後発、商品名、負担額）を明記していること、責任医師とクリニックの場所を明記していること、HIV や HBV/HCV、性感染症陽性時の対応を明記していることを含めた。推奨条件としては、言語対応について記載すること、

シスジェンダー女性の場合に妊娠検査を行えること、トランスジェンダーへの対応が含まれ、特にトランスジェンダー男性に妊娠検査を行えることやホルモン補充療法を行っていることを含めた。この基準は、令和 5～7 年度厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）の「HIV 感染症の曝露前及び曝露後の予防投薬の提供体制の整備に資する研究（研究代表者：水島大輔）」に基づいて策定された。

その後、潜在的な PrEP 提供者の掘り起こしのため、「PrEP クリニックでの先行事例に学ぶ」という医療者向け PrEP オンラインセミナー（限定公開）を 2023 年 10 月 20 日に開催した。本セミナーでは、PrEP 診療に関わっている北海道と大阪のクリニックの医師 2 名が実践例を発表した。また、2023 年 5 月 13 日にはプライマリーケア学会の PrEP セッションの開催に協力、2023 年 9 月 15 日は札幌の NGO が主催するイベントに、PrEP 処方に関わる医師と HIV 診療を行う医師と共に出演し、潜在的な PrEP 提供者や支援機関への情報提供を行った。

利用者向けには 2 回オンラインセミナーを開催した。まず、2023 年 12 月 3 日に「PrEP やるなら、クリニックに行こう！」というタイトルでオンラインセミナーを京都で開催した。このセミナーでは、PrEP を処方し、HIV 含む STI 検査を実施している 2 つのクリニックの医師が情報提供を行っ

た。また、PrEP ユーザー4名によるトークセッションとQ&Aコーナーも設けられた。続いて、2024年1月19日にコミュニティセンターmabuiでmabui大学「知りたいさ〜沖縄の事情、PrEP入門」を開催した。沖縄で報告されたHIV感染やクラスター調査の結果について医師が発表し、PrEP紹介動画や沖縄や東京にてPrEPの処方や検査などに取り組むクリニック紹介での実践報告も行われた。さらに、沖縄のHIV検査・治療に関する質疑応答セッションも行われた。

また、PrEPに関する教育資料として先行研究で作成されたA7サイズ16ページの「PrEPポケットガイド」を基に、「PrEPの使い方〜性別・セクシュアリティに関係なくHIV感染リスクを減らす」という約5分間の動画を作成した。更に、千葉大学医学部附属病院感染制御部・感染症内科の谷口俊文医師による「世界におけるセクシュアルヘルスクリニックのあり方」と題した解説動画も制作し、ホームページ上に公開した。

C. 研究結果

2023年10月20日に開催した医療者向けPrEPオンラインセミナーには日本全国から合計46人からの申込があった。参加者の背景は医師や看護師の他に、コミュニティセンター・スタッフからも複数名の参加があった。参加者アンケートから感想を一部抜粋する。

“当院でもやっと見守り外来の開始準備を始めています。具体的なお話を伺うことができ、実践にすぐ役立つことができそうです。”

“PrEPがその本来の目的を果たすためには、それを行う本人がその目的やメリット・デメリットを正しく理解することが不可欠のように感じました。感染者を潜在化させないのかな？とか、高額で転売する目的で入手しようとする人はいないのかな？とか、どうしてもデメリットの方が気になってしまいます。自分自身が正しく理解して情報提供できるよう、これからもPrEPについて勉強していきたいと思っています。”

“先生方のお話が大変わかりやすく、購入先や金額など、細かいところまで知ることができて大変よい時間でした。”

“PrEPの診療の実際、今後のPrEPに関する動きについて知ることができて勉強になりました。”

2023年12月3日の利用者向けオンラインセミナーは、申し込み不要のライブ配信だったため正確な視聴者数は把握できていないが、会場からの参加には8名の申し込みがあった。2024年1月19日の利用者向けセミナーに41名から参加の申し込みがあった。当日の参加者アンケートから感

想を一部抜粋する。

“県内のHIV感染の情報やウイルスの特異を知らなかったのも、とても有意義な内容でした。ありがとうございました。”

“お疲れ様でした。とても勉強になりました。

PrEPの動画はすごくよかったです。”

“PrEPを処方してもらう方法が思ったより多い事に驚きました。また具体的なコストや飲んでみての影響などについて医師や実際に服用している方の話が聞けて勉強になりました。”

“沖縄のHIVクラスターの背景には、島嶼ならではのコミュニティの狭さがあるのではないかなと感じました。例えば、『検査に行けば身内や友人にゲイバレするのではないかな。』や、『狭い沖縄のゲイコミュニティから排除されるのではないかな。』と言った不安が検査を受からという選択肢を取るハードルをさらに高くしてしまっているのではないのでしょうか。また、HIVに関する情報に関しては中高の保健体育の授業以来入ってくる機会が少なく感じます。これはセクシャリティーに関わらない課題だと思いますが、特に感染リスクの高いゲイコミュニティにおいて現在有効な広報手段が取れていない現状があると思います。現在、出会い系アプリやTwitterといった媒体があり、多くの情報がありますが、流れていく雑多な情報の一つとしてではなく、コミュニティセンターがあることで対面で正確な情報を得ることができるなど様々な媒体を確保しておくという点でも、今後も様々情報発信をしていただくことが大切だと感じました。また、今後HIVの予防やイメージ、PrEP等に関するイメージなど改善していく上でも情報発信が大切であると思います。”

尚、両日とも配信動画をアーカイブとしてホームページ上に公開している。

D. 考察

本研究では、地方都市含めた各地域でのPrEP提供体制の確立を支援するために多角的なアプローチが実施された。具体的には、PrEP in JAPANのホームページに「見守りリンク集」を作成し、医療機関の掲載基準を公開した。これにより、PrEP提供者が必要な検査を行い、提供するPrEPの詳細やクリニックの情報を明示することが促進され、透明性が向上されることが期待できる。また、医療者向けおよび利用者向けのオンラインセミナーを複数回開催し、PrEPの必要性や利用方法に関する知識を広めることができた。特に、「PrEPクリニックでの先行事例に学ぶ」セミナーでは、医療者が実践的な知識を共有し、地域で

の PrEP 提供体制の構築に寄与する情報を提供した。利用者向けのセミナーでは、直接的な情報提供とユーザー同士の交流を促進することで、利用者の不安を軽減し、PrEP の利用促進に寄与したと考えられる。

さらに、PrEP に関する教育資料や解説動画の作成と公開により、情報の普及と利用者の教育が効果的に行われたと考えられる。特に、約 5 分間の「PrEP の使い方～性別・セクシュアリティに関係なく HIV 感染リスクを減らす」動画は、簡潔かつ効果的に情報を伝えるツールとして機能していると考えられる。これらの資料は、PrEP 利用者のみならず、潜在的な提供者や支援機関にとっても有用なリソースとなると期待できる。

E. 結論

本研究を通じて、地域での PrEP 提供体制の確立と安全な利用促進のための基盤を構築していく。「見守りリンク集」の掲載基準の作成と公開、そして医療者および利用者向けのセミナーや教育資料の提供により、PrEP の知識と利用環境の向上が図られている。これらの取り組みは、地方都市における PrEP 展開の促進と、HIV 感染予防に対する意識向上に寄与する重要な成果をもたらすと考えられる。今後は、更なる情報の普及と地域ごとの特性に応じた PrEP 提供体制の強化が期待される。

G. 研究発表 なし

H. 知的所有権の出願・取得状況 なし